

【宇宙・航空特集】

イタリアの宇宙・航空防衛産業活気づく（イタリア）

2005年1月末よりイタリアの宇宙・航空防衛産業が非常に活気づいている。イタリアの宇宙・航空防衛産業の主要企業であるフィンメッカニカ社（Finmeccanica）は、飛行機、ヘリコプター、衛星、宇宙インフラ、防衛のためのミサイルや電子工学、運輸、エネルギー、情報技術部門等の企業16社とジョイントベンチャー企業6社で構成されるハイテクノロジー部門のホールディング会社（持ち株会社）であり、総従業員数は約51,000人である。本部門の規模では同社は欧州においてEADS社（ドイツ、フランス系）、THALES社（フランス系）、BAE SYSTEM社（英国）に続いて第4番目の地位にある。グループの年総売上高は約100億ユーロ（2004年）、総売上高の74%は宇宙・航空防衛部門で達成されている。総体的にイタリアの景気が芳しくない昨今において2005年当初からフィンメッカニカ・グループ（以下、フ・グループ）は合衆国のブッシュ大統領が乗るヘリコプターの入札を勝取ったり、ロシアと民間機、軍用機、無人飛行機のための合意を締結するなどを行った。あるいは4月には国際宇宙ステーションにおける22の諸々のテスト実施を目的とした、イタリア人の宇宙飛行士ロベルト・ヴィットーリが乗った欧州宇宙機関のEneideミッションにおいて、フ・グループのAlenia Spazio（アレニア・スパチオ）社が重要な役割を果たしている（Eneideミッションはイタリア政府、ラツィオ州、ローマ市、ラツィオ州の中小企業も参加しているものであった）。更にまた同グループは合衆国のGPSに取って代わる欧州衛星ナビゲーションシステムGalileo計画のイタリア側の中心企業になっているなど、今、非常に活気づいている企業である。同グループの最近の立派な出来事のいくつかを列挙する。

先ず2005年1月28日にフ・グループのAgusta Westland社（アグスタ・ウエストランド/フィンメッカニカ社100%保有：以下AW社）は、アメリカのブッシュ大統領が乗る次世代マリンワン・ヘリコプター-23機をアメリカ海軍に納入する委託を落札した。この落札は合衆国のロッキード・マーチン社とベル・ヘリコプターズ社との連携によって実現された。大統領専用機の受注を勝ち取るとことは非常に厳しい条件をクリアせねばならないことを意味する。落札された同社のヘリコプター、Agusta Westland US101機は、半世紀も大統領専用機を納入していた強力な競争相手である合衆国のUnited Technologies社のSikorskyS-92を打負かず快挙をなし遂げた訳である。これはAW社のヘリコプターの性能の高さを証明するものであり、今後他国からの受注の可能性を増大させることを意味する。フ・グループは更に米国海軍の146PRV（Personal Recovery Vehicle）計画の委託を勝取ることを目指している。

2008年に納入すべき23機のヘリコプター機種Agusta Westland US101はAgusta

Westland EH101 の新版で、その契約額は 17 億 8,800 万ドルとなる。EH101 機種は既にイタリア海軍に 16 機、英国空軍 RAF (Royal Air Force) に 22 機、また 44 機を英国王室海軍に既に納品している。目下日本、ポルトガル、デンマークの警察に納入すべきヘリコプターが製造されている最中である。現在 AW 社はベル・ヘリコプター社とともに、離陸する時はヘリコプターのように縦に離陸し、空を飛んでいるときには飛行機のように飛ぶ完全に新コンセプトによるヘリコプターの開発を行っており、2008 年～2009 年にそれを市場に出すことを計画している。

更に 2005 年 8 月上旬には合衆国のボーイング社の新民間機《787Dreamliner》開発計画にフ・グループの Alenia Aeronautica 社(アルニア・アエロナウティカ社：以下 AA 社)が参加する合意契約が結ばれ、第 1 回目のオーダーとして 150 機のためのコンポーネント製造が AA 社に委託された。その額は約 11 億ドル(約 9 億ユーロ)である。AA 社は《787Dreamliner》開発計画のための新双発機プロジェクトに最初の段階から関与しており、シアトルにあるボーイング社の工場に既に 200 人以上のイタリア人技術者を参加させている。更にまた AA 社は合衆国の Vought Aircraft Industries 社とともに設立したジョイントベンチャー会社 Global Aeronautica 社を通して《787Dreamliner》に既に参加している。Global Aeronautica 社は Dreamliner 機の構造の 26% を占めることになる飛行機胴体の中央部と後部、また安定板を担当している。

ボーイング社は、現段階において、世界各地の航空会社 20 社から 252 機の《787Dreamliner》機の注文あるいは仮注文を受けているとのことである。

目下 AA 社は、2006 年 4 月から製造が開始される《787Dreamliner》のカーボンファイバーによる胴体のコンポーネント製造に備えてイタリア南部プーリア州やカンパーニャ州にある AA 社の工場の改善や新工場の建設工事を開始しており、関係当局の協力も得て工場建設は順調に進められている。コンポーネントの製造受注によって 2008 年末までには 1,000 人の新労働ポストが創出されることが予測されている。

また AA 社は 7 月下旬に契約額が 2 億 1,900 万ドル(約 1 億 8,000 万ユーロ)になる監視飛行機 10 機をトルコ政府に納品する契約を結んだ。飛行機はアンチ潜水艦監視パトロールミッションのための軍用機 ATR 72 ASW(Anti Submarine Warfare)である。2010 年に納品が開始される契約合意によって、トルコの安全防衛技術分野のプロジェクト活動企業や製造企業と密な産業協力をも開始させることになる。ATR 72 ASW は、AA 社開発の商業用貨物機 ATR 72/500 の特殊版で、フランス Thales 社のミッションシステムを装備している。AA 社はまた、Bae System 社と EADS 社との協力によって AA 社が作製した欧州の追撃機 Eurofighter 機をトルコに売り込む課題も持っている。

2005 年 8 月モスクワで行われた航空見本市“MAKS2005 展”参加の折にフ・グループは、8 月 18 日ロシアの主要企業とロシアの民間航空機、訓練用軍機、無人飛行機

開発に関わる一連の重要な合意を結んだ。

先ず、民間機開発として AA 社は、RRJ(Russian Regional Jet)と命名されたロシアのローカル線のための新しいタイプの民間機製造開発に協力するという合意メモランダムをロシアの航空産業企業 Sukhoi 社と結んだ。メモランダムは、民間機開発計画のために Sukhoi 社によって 2000 年に設立された SCAC 社(Sukhoi Civil Aircraft Company) に AA 社が 25%参加するということを目録するものである。AA 社は SCAC 社参加によって同社の経験、例えば欧州証明書や製品産業化のための経験を提供する。更に今後の話し合いによっては西洋の工業先進国における製品の販売化、技術アシスタント等にも関与する。PRJ 計画で、PRJ95 (98 人乗り)、PRJ75 (78 人乗り) の 2 機種を 20 年間で 700 機製造することを計画している。

モスクワの航空見本市“MAKS2005 展”で署名された他の合意は、フ・グループの AA 社、Aermacchi(アエルマッキ)社、ロシアの航空産業会社 Irkut 社、Yakoviev 社 (Irkut 社の持ち株会社) 間のものである。合意の 1 つは、Aermacchi 社と Yakoviev 社と Rosoboroexport 社 (武器輸出のためのロシア政府機関) 間で取り交わされたもので、イタリアの Aermacchi 社の訓練用軍機 M-396 とロシアの訓練用軍機 Yak 130 の地理的販売ゾーンを定義しており、更にまた Yak-130 をベースにした新モデルを作り第 3 国に輸出することを目的とする開発協力も見越しているものである。もう 1 つの合意は、AA 社と Irkut 社間のもので、モスクワに本拠を置き、イタリア企業が 51%、ロシア企業が 49% 保有することになる民間飛行機部門のエンジニア活動会社 “Management Company” 社を設立するというものである。更にまた、AA 社、Aermacchi 社 Rosoboroexport 社、Irkut 社、Yakoviev 社の全てが関与してくる Yak-130 をベースにした極度に進んだ無人飛行機 (UAV - Unmanned Aerial Vehicle) 開発の可能性も話し合われた。

他方、全てイタリア製の AA 社の Sky-X という名の UAV のテスト飛行が 5 月末スウェーデンで実施され、大成功を収めている。Sky-X は、長さ 7 m、翼の全長は 6 m、約 200kg の荷物を運搬でき、離陸時の最大重量は 1,200kg、最大速度は 800km/h、巡航速度は 480km/h、高度 10,000m まで飛行できるものである。テストにおいて Sky-X は 232km/h の速度で離陸し、204km/h の速度で着陸している。

フ・グループは、上記のほかに、2005 年に入ってからまだ多々の重要な委託を国外から受けており、非常に活発な活動を繰り広げている。

以上

参考資料：イルソーレ 24 オーレ紙、フィンメーカーカ公式声明、フィンメーカーカグループ公式サイト、等。